

令和3年度実施 協働事業

事業報告書

●市民提案型協働事業

	事業名	パートナー	担当課	ページ
①	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	NPO法人 MAMA-PLUG	災害対策課	P1
②	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	NPO法人ぜんしん	中央図書館	P11

●行政提案型協働事業

	事業名	パートナー	担当課	ページ
③	平塚市生物多様性保全推進事業	ひらつか生物多様性 推進協議会	環境保全課	P19
④	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	ひらつか着地型観光 推進委員会	商業観光課	P28

●市民提案型協働事業

	事業名	パートナー	担当課	ページ
⑤	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	NPO法人 フードバンク湘南	環境政策課	P38
⑥	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業	NPO法人 湘南NPOサポートセンター	協働推進課	P48

令和3年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 特定非営利活動法人 MAMA-PLUG

団体代表者 荻野 潔

事業担当課名 災害対策課

事業担当課長 若林 正興

令和 年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	「アクティブ防災」で作る、 手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		
事業開始年度	平成31年度～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	578,672 円	内 訳	市の支出 578,672 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	平成31年度より継続して行っている「女性と子どもの視点の防災」を、3年目の最終年度として、「ずっと続ける、もっと進める防災へ」をコンセプトに、防災啓発の「加速」と「持続」を実現するための防災セミナーや勉強会を実施する。また協働事業が終了する次年度以降も、平塚市のレガシーとなる持続可能な親子防災啓発のセミナーを行うための礎を築く。		
具体的な 実施内容	<p>令和3年5月</p> <ul style="list-style-type: none"> 冊子「HIRATSUKA 親子防災」のデータ追加、増刷（3,000部） <p>令和3年5月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> プレママ～2歳までのお子さまをもつ保護者向け防災セミナー知識編①実施 参加者：11組25名（大人13名（父親1名、祖母1名）／子ども12名） <p>令和3年5月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災講座勉強会実施 参加者：災害対策課職員 5名 <p>令和3年6月15日</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どものいる家庭の防災セミナー（座学編）実施 参加者：12組15名（大人12名／子ども3名） <p>令和3年6月22日</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災ピクニック研修会実施 参加者：災害対策課職員 6名 <p>令和3年6月30日</p> <ul style="list-style-type: none"> プレママ～2歳までのお子さまをもつ保護者向け防災セミナー実践編①実施 参加者：13組28名（大人14名（父親1名）／子ども14名） <p>令和3年7月20日</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どものいる家庭の防災セミナー（ワークショップ編）実施 参加者：7組12名（大人7名、子ども5名） 		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

	<p>令和3年10月19日</p> <ul style="list-style-type: none">・防災ピクニック①実施 ※雨天のため、室内で実施 <p>参加者：6組10名（大人7名（父親1名）／子ども3名）</p> <p>令和3年10月30日</p> <ul style="list-style-type: none">・プレママ～2歳までのお子さまをもつ保護者向け防災セミナー実践編②実施 <p>参加者：8組15名（大人9名（父親1名）／子ども6名）</p> <p>令和3年11月20日</p> <ul style="list-style-type: none">・防災ピクニック②実施 <p>参加者：12組35名（大人19名（父親6名）、子ども16名）</p>
--	--

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和3年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	696,880	696,880	0	
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 696,880	B 696,880	B - A 0	
② 支 出	人件費	504,630 (504,630)	443,210 (443,210)	-61,420	コロナ対策で講座が1本開催できなかったため。 アシスタントの役割を災害対策課の職員が務めたため。
	報償費	25,520 (25,520)	18,370 (18,370)	-7,150	コロナ対策で講座が1本開催できなかったため。
	諸経費	66,180 (66,180)	38,531 (38,531)	-27,649	コロナ対策で講座が1本開催できなかったため。 前年度の残余分の材料を使用したため。 コロナ感染症予防のため参加人数を絞り、必要な材料も少なくなったため。
	旅費・交通費	36,000 (36,000)	11,024 (11,024)	-24,976	講師が車で行き、交通費支給が無いものがあったため。 アシスタントを使わない講座があったため。 対面での打合せが予定よりも少なかったため。
	印刷費	31,000 (31,000)	34,097 (34,097)	3,097	見積もり時点と実施時点で価格が変更となったため。
	委託料	33,550 (33,550)	33,440 (33,440)	-110	振り込み手数料が想定よりも安価だったため。
		()	()	0	
		()	()	0	
支出合計	C 696,880 (696,880)	D 578,672 (578,672)	D - C -118,208		
③	収支決算額 B 696,880 円 - D 578,672 円 = 118,208 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	「アクティブ防災」で作る、 手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	3年間の事業の集大成ということで、事業終了後にどのように平塚市でこの事業を活かし、継続していくかを意識しながら実施することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	人事異動によって今年度の災害対策課の担当者の入れ替わりがあったが、しっかりと引き継がれ、すぐに協力体制ができ、役割分担についてもこれまで通り行うことができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	早め早めに相談しながら進めることができたので、コロナ禍でのさまざまな変更事項においてもトラブルなく進めることができた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	お互いにそれぞれの立場から意見を出し合い、ざっくばらんに話し合いながら事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	年間を通した防災啓発活動は、単独では不可能な事業であり、災害対策課と団体が互いの強みを生かしながら協力することによって実現できた事業だった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	コロナワクチン接種会場の関係で急遽会場変更をし、使えなくなってしまった設備があったり、コロナによって中止となったセミナーがあったりと、想定通りに行かないこともあった。しかし前年度からの学びで事前の準備や対応をすることができた。中止になったセミナー（連続講座の前編）もその内容を後編の講座に組み込むことで内容を落とすことなくしっかり伝えることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	1年目、2年目で経験を積んだことで無駄を省き、想定予算より費用を抑えることができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民が参加するセミナーにおいてはすべてアンケートを行ったが、満足度は高かった。また、1年目に参加した方が今年度再度参加し、自身の防災の取り組みを紹介してくれたり、一度参加した方が別の講座に友人や家族を連れて来てくれたりと、直接成果を感じる事もあった。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	災害に対して不安を感じやすい「妊娠時」「子育て時」に、災害に対する対処法や考え方を学べる実践的なセミナーを受講することで不安を解消し、災害への備えに取り組むことができた。
団体の メリット	行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができた。また、協働事業でなければ実現が難しい、年間を通した集中的かつ包括的な防災セミナーを実施することができた。
市の メリット	これまで団体が培ってきた生活者としての視点を取り入れた家族目線の防災を市の災害対策に取り入れることにより、防災弱者となりうる子連れ世帯や、「防災無関心層」「防災未対策層」へのアプローチが可能となった。また、若年家族層に向けた防災啓発のノウハウを継承することで、市民に向けた持続可能な防災啓発活動を行うことができるようになった。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業は今年度で終了となり、協働事業で行ってきた防災セミナーは災害対策課が継承し、若年家族層に向けたアプローチを行っていく。開催にあたり確認事項などがある場合は団体宛に連絡をいただければ対応していくなど、今後も平塚市の防災に注目し、協力していきたい。
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	災害対策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	協働事業最終年度となり、団体と協働して実施してきた事業を、次年度から本市単独で実施することを目的として、相互に話し合いを重ねつつ、実施することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	年度当初に設定した役割分担のとおり、事業を実施することができたほか、相互に連携しながら事業を実施することができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	セミナー開催や次年度以降の事業継承など、最終年度ということを念頭に置きつつ、十分に協議を行った。 コロナ禍で対面での打合せ機会が減るなか、電話やメールなどで相互に連絡を取り合い、コロナ禍でも遅滞なく、臨機応変に対応することができた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	相互の役割と責任を認識し、対等な立場のもとに連携して業務を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	お互いの専門性やノウハウを活用し、連携して事業を実施することにより、単独で実施するよりも、講座内容が幅広く、充実したものとなった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初の計画通りの事業実施が困難となったが、団体と協議を重ね、講座内容を不足なく参加者へ伝え、防災意識の向上を図ることができた。また、事業継承の面では、各種勉強会を通して、団体のノウハウを吸収することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	前年度に未使用であった物品の活用等で、セミナー内容を充実させつつ、経費を抑えることができた。 母子向け防災冊子の一部改訂、増刷を行い、配布するとともに、市ウェブで公開し、ダウンロード可能とすることで、幅広い世代へ周知することができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民向けセミナーで集計したアンケートで「このセミナーを他の人にも勧めたい」と回答した人が8割を超えたり、「すぐに取り組んでみようと思ったものがあつた」と回答した人が10割近くなるなど、参加者の満足度は高いと思われる。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	災害について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」に、災害への対処法や考え方を学べる防災セミナーを受講することで不安を解消し、災害への備えに実用性の高い防災力を身につけることができた。
団体のメリット	本市との協働により、地域防災の現状について把握し、地域の状況に即したセミナーを実施することができた。 また、団体の活動について、セミナーを通じて市民へ周知することができた。
市のメリット	これまで多くの自治体と連携してきたママプラグの生活者としての視点を取り入れたアクティブ防災を通して、これまで具体的な啓発を講じづらかった市民に向けた取組を進めることができた。また若年家族層に向けた防災啓発のノウハウを継承することで、市民に向けた持続可能な防災啓発活動を行うことが可能となった。

(4) その他、課題やその改善方法など

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での講座実施を中止とする可能性があることや、当日、子どもの体調不良等により欠席する保護者がいることから、「防災ひらつか」(Twitter・YouTube)の周知啓発を継続するとともに、保護者が自宅でも受講できるよう、オンライン開催も視野に入れ、検討を重ねていく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業３年間で吸収した団体のノウハウや協働事業で作成・発行した母子向け防災冊子を活用しつつ、本市職員が講師となり、セミナーを実施する。
子どもと一緒に楽しめる訓練などを盛り込み、防災弱者となりうる子連れ世帯・若年家族層の災害意識を向上させていく。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG	担当課名	災害対策課
事 業 名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・コロナ禍で対面での打合せ機会が減るなか、電話やメールなどで相互に連絡を十分に取り合い、スムーズに事業を進めることができた。
- ・コロナ禍で、当初の計画通りの事業実施が困難となったが、協議を重ね、臨機応変に対応することで、講座内容を不足なく、また行政からの説明も併せて参加者へ伝えることができた。
- ・お互いの専門性やノウハウを活用し、連携して事業を実施することにより、単独で実施するよりも、充実した講座を企画できた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・協働事業最終年度（3年目）に、1年目に参加した方が再度参加し、自身の防災の取組を紹介してくれたり、一度参加した方が別の講座に友人や家族を連れて来てくれたりと、本協働事業の波及効果を直接感じる機会があった。
- ・市民向けセミナー（全7回）で実施したアンケート結果からは、セミナーへの満足度の高さが見受けられ、参加者へセミナー内容を効果的に伝えることができた。
- ・来年度からの行政単独実施に向け、災害対策課職員向けの勉強会を2回開催し、団体の培ってきたノウハウを習得することにより、協働事業終了後も若年家族層に向けた防災啓発を継続して実施できる体制を整えることができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

【市民のメリット】災害について不安感が増す「妊娠時」「子育て時」に、災害への対処法や考え方を学べる防災セミナーを受講することで不安を解消し、災害への備えに実用性の高い防災力を身につけることができた。

【団体のメリット】行政の現状や対応について知り、地域防災の見識を広げることができた。年間を通じた集中的かつ包括的なセミナー実施により、セミナー実施後の参加者の反応・対応を見ることができ、その後のセミナーに活かすことができた。

【市のメリット】ママプラグの生活者としての視点を取り入れたアクティブ防災は、これまで具体的な啓発を講じづらかった市民層に向けた取組を進めることができたとともに、若年家族層に向けた防災啓発のノウハウを習得できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

・セミナー会場内に授乳・おむつ替えスペース（間仕切りテント）を用意することにより、乳幼児を連れた参加者が、セミナーを聴講しやすい環境づくりを行った。

・コロナ禍により対面での講座を中止とする可能性があることや、セミナー当日、子どもの体調不良等により欠席する保護者がいることから、「防災ひらつか」（Twitter・YouTube）の周知啓発を継続するとともに、保護者が自宅でも受講できるよう、オンライン開催も視野に入れ、検討を重ねていく。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業3年間で習得した団体のノウハウや協働事業で作成・発行した母子向け防災冊子を来年度以降も活用するとともに、本市職員が講師となり、セミナーを実施しながら、防災弱者となりうる子連れ世帯・若年家族層の災害意識を向上させていく。

令和 3 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長殿

団 体 名 特定非営利活動法人ぜんしん

団体代表者 柳川 涼司

事業担当課名 社会教育部中央図書館

事業担当課長 館長 小林 裕治

令和 2 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成 31 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	877,929 円	内 訳	市の支出 849,280 円 ----- 団体の支出等 28,649 円
事業の概要	<p>過去 3 年間に渡り、不登校・ひきこもりに悩む親子に対し、市の青少年課と協働し、彼らの居場所を設け、相談に応じる等しながら問題の改善と自立を促す事業を行って来た。ひきこもり状態から脱し、居場所を訪れた若者が更に自信を高め、自立する為には、居場所以外のシーンで成功体験を積み重ねることが求められる。そこで、本事業では、不登校等で悩む若者が中央図書館でのボランティア体験を通して自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すことを目的に定めた。</p>		
具体的な実施内容	<p>本年度は以下の通り、新型コロナウイルス感染症対策を施し、本の修繕ならびにフローア作業のボランティア体験を実施した。また、動画撮影等も行った。</p> <p>①4月30日 図書館での作業内容の更新・追加ヒアリングの実施(1回) 追加する作業内容の選定、各「作業マニュアル」の更新、「作業手引き用動画」や「広報用動画」等の作成に向け、市職員と確認等を行う</p> <p>②6月～3月 [A]各マニュアルの更新や「体験者用成果・評価レビュー」の作成に向けた編集会議(3回)と[B]「作業手引き用動画」と「広報用動画」制作に向けた講義等を含めた編集会議(7回)※[A]と[B]の合計10回/57名参加</p> <p>③4月～3月 マニュアル・アンケート・打合せ等の書類作成(32回)</p> <p>④6月～2月 ボランティア体験をするスタッフの研修(全5回/20名参加) 本年度は更に市の職員による助けが不要になるレベルを目指す為、作業内容の動画を撮影しながら研修を行う[On-JT 3回] また、ボランティア体験日当日を想定したロールプレイも実施し、進行の効率化等を図った[Off-JT 2回]</p> <p>⑤6月～3月 ボランティア体験の実施(全8回/当事者54名参加) 当事者は「体験者用マニュアル」を確認する等し、ボランティア体験を受けた(本の修繕4回、書架整理4回)。本年は新たに当事者がお勧めする書籍を市のHPで紹介する企画のヒアリングも実施</p> <p>⑥3月23,25日 ボランティア体験アンケート集計、振り返り会議の実施(2回) 各作業マニュアルの更新、作業手引き動画や当事者の達成度確認等を行う</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

令和 3 年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	849,280	849,280	0	
	団体の支出	69,826	28,649	-41,177	団体の正会員費等から充当
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
	収入合計	A 919,106	B 877,929	B-A -41,177	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	謝金(講師)	45,000 (45,000)	45,000 (45,000)	0	15,000円×3日
	謝金(総括責任者)	291,000 (291,000)	321,000 (321,000)	30,000	※別紙、「人件費明細書」参照 ※増加理由：動画制作に関わる作業等に加え、編集会議[B]が増えた為。
	謝金(ボランティア)	406,000 (406,000)	370,000 (370,000)	-36,000	※別紙、「人件費明細書」参照 ※減額理由：予定していたスタッフが体調不良等により事業に参加できなかった為。
	事務用品費	103,666 (33,840)	58,847 (58,847)	-44,819	※減額理由：購入を予定していたデジタルビデオカメラ等を団体スタッフから借用することが出来た為。
	旅費交通費	57,120 (57,120)	29,680 (29,680)	-27,440	200円×2×21回(辻堂⇄平塚)、240円×2×10回(辻堂⇄平塚)ほか 駐車場代：7,800円 ※減額理由：想定スタッフが変更となった為
	保険料	16,320 (16,320)	19,040 (19,040)	2,720	団体スタッフの傷害保険：680円×4日×4人、680円×4日×3人 ※増加理由：手厚い支援を行う為、スタッフを増員した為。
	印刷製本費	0 (0)	22,742 (5,713)	22,742	プロモーション動画用小道具「書籍ころも」製作費：10,000円 ポスター(A1版2枚)：5,992円、パンフ(A4カラー1,000枚×2)：5,260円 他
	通信運搬費	0 (0)	11,620 (0)	11,620	近隣の行政機関等へ当該事業を周知する「パンフレット」の郵送費：210円×32通、140円×32通、84円×5枚
支出合計	C 919,106 (849,280)	D 877,929 (849,280)	D-C -41,177		
③	収支決算額 B 877,929 円 - D 877,929 円 = 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む当事者の特性等を踏まえながらボランティア体験を通して彼らが自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すという目的を見失うことなく、本年は、より多くの情報を共有しながら、事業を展開することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	本年度も当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 各種の作業マニュアルの更新や動画制作は、団体が中心に行い、また、ボランティア体験作業の準備やご指導等については、市の職員様において丁寧に対応いただいた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	コロナ情勢を踏まえ、事前の準備段階からメール等で団体スタッフと市担当職員様との間で希望する作業内容等を双方で確認した上で事業に臨むことが出来た。ボランティア研修等の実施後も双方で振り返りの時間を設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図ることが出来た。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 双方が抱える問題点等については、事業後に開く、話し合い時の「議事録」を作成、共有を図りながら、互いが対等な立場で、解決策を考え、事業に反映することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体単独では本事業の成立は困難を極めたと思われるが、協働事業として事業を実施できたことにより、信頼性の高い市の公共施設をお借りでき、更に市の職員様から体験作業のご指導等を受けることが可能になった。参加者が安心して参加できる等の効果が得られている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	「成果目標値」は、全ての項目で達成することが出来た。特にボランティア体験の実施においては、目標を上回る54名の方々に参加いただけた。また、作業補助動画等が完成し、更にスタッフ研修では、克服すべき作業の確認や体験日のロープレ等も行い、目的は達成されたと見ている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	本の修繕等において作業内容の把握が難しいものもあるが、団体スタッフは理解を深めながら作業補助教材動画等を完成させる為、多くの時間を割いた。各動画の制作に多くの時間と労力を割いたが、予算内でそれぞれの作品が完成し、更に体験日には目標を上回る方々が参加したこともあり、経費に見合うサービスは提供できたと考えている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など アンケート結果による「満足度(10段階申告)」は、平均値で7.1点(前年6.8点)と判明した為、体験者から評価を頂けたと受け止めている。次年度も本の修繕等を含め、新たな体験内容を増強しながら更に満足度を高めていきたい。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 元当事者サポーターらが作業等に寄り添う為、手厚い支援が得られた 参加者の状況を考慮した作業で、自立意欲を高めることに寄与した
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に要する「ボランティア体験スペース」を確保できた 市の施設にて関連する職員と協働することで団体の信頼度が高まった 拡充が求められる就労支援メニューを追加することが可能になった
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 職員がこなせず、保留となっていた本の修繕・書架整理等を行うことができた 団体のノウハウを活用し、体験者を受け入れる為の各種のツール等が完成した 市内諸機関で解決策を得られない相談者へ支援の手を差し伸べることができた

(4) その他、課題やその改善方法など

今後もボランティア体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

- ① 当事者への助言がしっかりとできるように本の修繕等の作業内容の理解を更に深める(書架整理ほかの作業経験を積む等)
- ② 協働事業という制度終了後も当該事業を継続する為の資金等。
- ③ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、ボランティア体験を継続していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 (市担当課様と団体に協議し、適宜、体験者を受け入れて頂きながら実施していく)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・本事業の成果物(体験者/スタッフ用作業マニュアル、補助教材用作業動画、プロモーション動画等)を市や団体が、それぞれの事業で有効活用していく。
- ・協働事業終了後にも年間6回程度、本事業のプログラムを継続させていただき、当団体の居場所を利用する若者が、段階的に自立できるような機構を構築していく。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	中央図書館	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた 不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	団体及び市としての目的である不登校やひきこもり当事者の自立支援と、図書館の図書整備（本の修繕及び書架の整理）を目的とし、ふたつを両立して実施する方向で共有することができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	図書館は活動の場と作業の提供、必要に応じて修理方法の助言などの役割を果たすことができた。団体は、前年に引き続きひきこもり当事者のサポートを行いながら、作成したマニュアルを活用しボランティア作業を進めることができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	コロナ禍で人が集まることにまだ制限が続いているため、図書館と団体間でメールを密にやり取りし、参加者に作業体験に配慮すべき情報など意見交換し、十分に協議が行えた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	体験が終了するたびに、団体スタッフと図書館職員が、当日の状況振り返りを必ず行い、良かった点、反省点の意見を出し合うことができた。図書館ができること、又は団体ができることに対する理解度が双方で更に深まった。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	ボランティアの視点で作成することで、誰でも分かりやすいマニュアルを作ることができた。自立支援として、ボランティア体験を通して自信をつけてもらうことができた。ひきこもり当事者の方から、回復のきっかけとなる本を紹介してもらうなど新しい取り組みも準備できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	作業マニュアルの補足・修正を行うことともに実際の作業を説明する動画を作成し、マニュアルの補足資料を作成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	ボランティア体験者の声を反映させることで誰でも分かりやすいマニュアルを作成することができた。 ひきこもり当事者の自立支援を、専門的なサポートを受けることで、図書館ボランティア体験として実施する方法が整えられた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 体験者からは「貴重な体験ができた、機会があればまた参加してみたい」等の意見があり、11名がリピートで参加していただいた。コロナ禍当初は体験時間を短縮していたが、収束後に作業時間を短縮せずに行えたことも満足度が得られた要因ととらえている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり当事者が自立支援を受けることができた ・図書館整備が行われることで図書館利用者の利便性が向上した
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のボランティア作業、作業スペースを得ることができた ・自立支援事業に新しい就労支援メニューを追加することができた
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり当事者の自立支援を行う専門的な団体と連携できた ・図書館整備(本の修繕・書架整理)を行うことができた

(4) その他、課題やその改善方法など

・新型コロナウイルス感染症対策をとった実施の方法を、そのつど協議しながら行うことができた。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他 (ボランティア体験として、継続して行う)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

・協働事業としては終了するが、図書館整備ボランティア体験として年に数回行えるように団体担当者と協議していきたい。

B：「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A：自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	社会教育部中央図書館
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

本年度も事業実施に向け、事前準備や事後の振り返り等において「議事録」を活用する等し、市の担当職員と団体スタッフが、しっかりと意見交換を行った。双方で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組むことができた。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。特に、ボランティア研修とその後のミーティング内容を次回の研修に反映する等、互いが「対等な立場」で快く事業を展開することができた。

「相互評価や波及効果」については、体験者の若者が「おすすめ図書を紹介する企画」ほか、市と団体が互いの強みを活用できたことに加え、新たな支援メニューとして市民にアピールできたこと等から今後への「波及効果」は期待できると考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

コロナ禍にありながら「目的・目標の達成」については、事業提案書の〈成果目標値〉に定めた各種「作業マニュアル」等の更新、動画ツールの完成、スタッフ研修、ボランティア体験の実施等が滞りなく進み、各目標値を達成できたことから目的・目標は達成されたと考えている。

「費用対効果」については、受益対象者と図書館双方の立場に配慮した各種の作業教材用ツール等を慎重に作成する等し、計画した予算範囲内で事業を実施した。その結果、事前に想定していた参加者以上の参加があったことに加え、アンケートのコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスを提供できたと見ている。

「受益者サービス」については、アンケートの結果から、参加者の満足度が高いと見ている。本事業に対して受益者からは、「スタッフさんが常に側にいて教えてくれたので、とても安心して作業できた」、「予約本探すのを今回は、3冊だったから次はもっと探したい。今回も楽しかったです」等の声もあり、3年目の体験事業として、評価をいただけたと受け止めている。

評価の流れ A：「自己」評価シート → **B：「相互」評価シート** → C：審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、手厚い支援を受けながら本の修繕・書架整理を体験することができた。本年も作業体験を通して自立意欲を高めた参加者も現れている。更に、図書館整備として保留となっていた本の修繕等が行われたことで、図書館利用者の利便性が向上した。

「団体のメリット」としては、ボランティア体験会場を確保できたことに加え、拡充が求められている就労支援メニューを追加することが可能になったことは大きなメリットといえる。更に、協働事業として図書館職員と協働することで、団体の信頼度が高まり、当該事業以外の支援活動に広がりを持つようになっている。

「市のメリット」については、図書館整備(本の修繕・書架整理)を行うことができた。また、ひきこもり当事者の自立支援を行う専門的な団体と連携し、団体のノウハウを活用した不登校等の当事者を受け入れる為の各種のマニュアルや動画等を完成させたことで、今後も市内諸機関で解決策を得られずにいる当事者親子へ支援の手を差し伸べることができると考えている。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後も継続的にボランティア体験を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

- ・団体と市双方の課題：新型コロナウイルス感染症対策をとった実施の方法を、そのつど協議しながらボランティア体験等を開催していく。
- ・主として団体の課題：①当事者へしっかりと助言ができるように本の修繕や書架整理等の作業内容の理解を更に深める。
②協働事業という制度終了後も当該事業を継続する為の資金調達。
- ・主として市の課題：次年度以降も継続的なボランティア体験者の受入れについて検討していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
- 行政が単独で実施 団体が単独で実施
- その他 (中央図書館と団体で協議し、適宜、体験者を受け入れて実施していく)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・本事業の成果物(体験者/スタッフ用作業マニュアル、補助教材用作業動画、プロモーション動画等)を市や団体が、それぞれの事業で有効活用していく。
- ・協働事業終了後にも年間 6 回程度、本事業のプログラムを継続させていただき、当団体の居場所を利用する若者が、段階的に自立できるような機構を構築していく。
- ・協働事業終了後の財源確保としては、民間助成の活用だけでなく、当該事業を加えた一連の支援プログラムの利用者から負担をいただくことを検討する。
- ・協働事業終了後も近隣市町村で新たな活動の展開を検討している。

令和3年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名	ひらつか生物多様性推進協議会
団体代表者	荒井 啓三
事業担当課名	環境保全課
事業担当課長	二宮 悟之

令和3年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		
事業開始年度	令和元年度	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	3,960,031 円	市の支出	市の支出 3,960,000 円 ----- 団体の支出等 31 円
事業の概要	<p>市内の里山や河川などで活動し、生き物に造詣のある市民や市民団体、市内企業などを中心に学識経験者を加えて組織した団体と環境保全課が協力し、令和元年度から3年度までの3年間で、市内の生物の生息状況を調査、分析し、自然環境評価書を作成します。</p> <p>令和3年度は、植物、昆虫、魚類・甲殻類・水生貝類のフォローアップ調査を実施しました。3月には自然環境評価書が完成し、環境保全課で配布するほか、市内の各図書館及び各公民館で閲覧を開始しました。</p> <p>5月には土屋で自然観察会を開催。11月には市役所本館でパネル展を開き、令和元年度及び2年度の調査結果をお知らせしました。</p>		
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生物調査：植物、昆虫、魚類・甲殻類・水生貝類の3班が、上吉沢地区や土屋霊園周辺等の陸域を中心に、10月までフォローアップ調査を実施しました。 調査時間は延べ400時間となりました。 令和元年度～3年度の調査結果を取りまとめ、「平塚市自然環境評価書（以下、評価書）」を作成しました。評価書は本冊子と概要版の2種類を作成し、3月18日（金）に市ウェブで公開。3月30日（水）からは、概要版の配布を開始しました。 ・啓発事業：【春の昆虫観察会】5月9日（日）、土屋の里山体験フィールド。生物調査の対象エリアとなっている同フィールドで、ひらつか生物多様性推進協議会の昆虫班メンバーが講師を務めました。親子を中心に20人が参加しました。 【ひらつか生物多様性推進協議会パネル展】11月2日（火）～5日（金）。市役所本館1階多目的スペース。令和2年度までの調査結果をエリアごとにまとめ、展示しました。 【環境ファンクラブ活動発表会】今年度はYouTubeでの配信となったため、3月19日（土）の収録に参加。調査結果の概要や今後の課題等を発表しました。 		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和3年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	3,960,000	3,960,000	0	負担金 3,960,000円
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	0	31	31	貯金利息 31円
	収入合計	A 3,960,000	B 3,960,031	B-A 31	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	調査人件費	480,000 (480,000)	339,000 (339,000)	-141,000	調査人件費 従事者延べ 23人・400時間 339,000円 ※139,240円を印刷製本費へ、1,760円を保険料へ振り替え ※収支予算書では、計800時間で計上していたが、令和2年度の調査の進捗状況によりフォローアップ調査を実施しなかった班や調査エリアがあったため減となった。
	消耗品費	10,000 (10,000)	645 (645)	-9,355	自然環境評価書送付用封筒・筆記用具等 645円 ※9,355円を印刷製本費へ振り替え ※収支予算書で計上していた救急用具は、前年度までに購入した物品で賄えたため、購入せず。
	事務費	5,000 (5,000)	2,640 (2,640)	-2,360	調査人件費振込手数料・調査人件費金種指定手数料 2,640円 ※2,360円を印刷製本費へ振り替え
	印刷製本費	330,000 (330,000)	537,986 (537,986)	207,986	自然環境調査結果報告書 (水域概要版200冊) 19,275円 平塚市自然環境評価書 (本冊子370冊・概要版1090冊) 518,711円 ※自然環境評価書は、今回の自然環境調査まで、10年程使用することが見込まれ、これまで作成した概要版を年平均200冊程度配布していることを鑑みて、増刷した。 ※新型コロナウイルス感染症の影響が不明であったため、イベント等で配布予定であった広報誌は作成せず、環境保全課のSNSを利用して、活動状況の報告等を行った。
保険料	65,000 (65,000)	66,760 (66,760)	1,760	調査活動保険料 60,760円 5月9日昆虫観察会保険料 6,000円	

分析・評価委託費	3,010,000 (3,010,000)	3,003,000 (3,003,000)	-7,000	分析・評価業務委託 3,003,000円 ※7,000円を印刷製本費へ振り替え
啓発事業関係費	60,000 (60,000)	10,000 (10,000)	-50,000	5月9日昆虫観察会講師謝礼 (5,000円×2人分) ※50,000円を印刷製本費へ振り替え ※新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの参加人数を縮小したため、サポートメンバーのための啓発事業人件費が0円となった。 ※啓発ポスター等 (啓発事業パネル展のパネル) を、環境保全課で作成したため作成委託料が0円となった。
	()	()		
支出合計	C 3,960,000 (3,960,000)	D 3,960,031 (3,960,031)	D - C 31	
③	収支決算額 B 3,960,031 円 - D 3,960,031 円 = 0 円			【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか生物多様性推進協議会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市生物多様性保全推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

（1）協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	これまでの2年間のフォローアップと並行して、自然環境評価書の作成を進めることできた。また、自然観察会を実施し、調査エリアの自然の豊かさを周知するなど、生物多様性を後世へつなげるという目的を共有しながら事業を進めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	団体は各グループの専門性・経験を活かして調査や啓発事業を実施し、担当課は調査がスムーズに行えるように、各グループ、事業者や市役所を含む関係機関との調整を支援した。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	ウェブ会議による5回の運営委員会を開き、意思疎通や検討を十分に重ねることができた。 また、日々の質問事項等はメールでの共有を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの立場を理解し、尊重しながら、対等な立場で事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	お互いの持っているノウハウやスキルを出し合い、協力することで、自然環境評価書の取りまとめが円滑に行えた。また、担当課による広報やSNSを利用した周知や、市ウェブへの成果物の掲載、市庁舎多目的広場へのパネル展示など、協働による効果が得られた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	昨年度は開催できなかった啓発事業を開催でき、市民、特に子ども達へ、平塚市の自然の豊かさや、それを後世に残していく必要性を伝えることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	調査エリアや目的の種を絞ることで、効率的なフォローアップ調査を実施することができ、予算の範囲内で、効果を上げることができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など パネル展で配布したパンフレットや、3月末に配布を開始した自然環境評価書は好評であった。 また、啓発事業には多くの応募があり、参加者には楽しみながら、生物多様性の現状を伝えることができた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	身近な資料としての、自然環境評価書が完成し、平塚市の生物多様性の現状を知る機会が増えた。
団体のメリット	メンバーは調査を進める中で相互理解や関係が深まった。また、今までそれぞれが活動していた分野を超えて調査に参加する等、新たな機会を得ることができた。
市のメリット	自然環境評価書をまとめると共に、調査活動で感じた保全に向けた課題も提供され、アクションプラン策定の参考とすることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業は令和3年度で終了するが、生物多様性保全を進めるためには継続的な調査と、調査を実施する後継者の育成が必要なため、今後も協力を続けていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境部 環境保全課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市生物多様性保全推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	お互いが「生物多様性を保全し、後世に伝えるという」共通の目的に沿って事業を実施できた。 また、協働事業最終年度である今年度は、自然環境評価書を完成させるという目的を両者でよく理解し、計画的に進めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	市内の自然環境や生物に造詣の深い団体は調査の実施や結果の取りまとめ、啓発事業の発案や講師を担い、市はその支援や団体のメンバー間及び関係機関との連絡調整を担うという適正な役割分担ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	オンラインでの開催ではあったが、運営委員会を5回開催し、意見交換の場の確保に努めた。昨年度課題と感じた、情報の正確な共有に関しても、今年度はメールでの連絡調整を強化し、常に共通認識を持ちながら、事業を進めることができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と担当課で対等な立場であることを念頭に置き、調査や啓発事業などを実施・計画する際には、互いの意見を尊重し、事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体の持つ、生物に関する知識やこれまでの経験から来る「伝える」技術を発揮してもらうことで、高い専門性を持ちながらも、親しみやすい自然環境評価書を作成することができた。また、成果物の市内公共施設への配架や市ウェブへの掲載、市役所が保有するデータの利用申請等、担当課の役割を果たすことで高い効果を得ることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	市生物多様性アクションプラン策定の基礎データとするための自然環境評価書を完成させることができた。 また、昨年度は実施できなかった啓発事業を開催することができ、市民が生物多様性の現状に触れる機会を提供することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	航空写真等、市役所内の情報を活用することで、視覚的にも充実した冊子を作成できた。 また、市民向けに配布する概要版では、内容やページ数を抑えることで、単価を抑えつつ、手に取りやすく、読みやすい冊子を作成することができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民参加型の啓発事業では、参加者アンケートで、好評を得ることができた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体の持つ専門的な知識が、啓発事業や調査結果を通して還元されることで、自らの住むまちの自然環境を考え、活動するきっかけを持つことができた。
団体のメリット	協議会メンバーの各団体の活動や考え方の相互理解が進み、活動の活性化が図れた。 また、イベントの参加者募集やパンフレット等を市ウェブに掲載することで、活動の周知につながった。
市のメリット	これまでの長年の活動の実績がある各団体と一緒に生物多様性保全に取り組むことで、市アクションプラン策定の基礎資料がまとまっただけでなく、今後の課題も知ることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 (

休止または終了

団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては令和3年度で終了するが、生物多様性の考え方を広めるための啓発事業や生物多様性保全事業には、メンバーの経験や知識が不可欠であるため、これからも協力を求めている。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか生物多様性推進協議会	担当課名	環境部 環境保全課
事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「生物多様性を後世へつなげる」という目的をお互いに共有しながら、事業を進めることができた。

事業の核となる生物調査とその結果の取りまとめ、さらには啓発事業の企画は団体が主となり実施し、担当課はそのサポートをするという役割分担に沿って、お互いに対等な立場を尊重しながら、十分な協議の下に事業を展開することができた。また、団体と担当課がそれぞれ単独で行うよりも、事業の波及効果が高まった。

評価については、それぞれの補足を確認しあい、お互いの見解に相違がないことを再度確認できた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

3年間の協働期間のうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける期間が長く、調査活動や啓発事業が計画どおり進まない時期があったが、自然環境評価書の作成という最終目標をお互いに確認しあい、事業を進めることができたと考える。

また、SNSを利用した情報発信や、配信での活動発表会に参加するなど、社会情勢に即した啓発活動を行うことができたと考える。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民向けに配布できる自然環境評価書がまとまったことで、身近な自然環境と、そこに住む生物の多様性を知り、自らで活動するきっかけが提供されたという市民のメリット、異なる分野で活動してきたメンバー同士の相互理解や情報共有が進み、活動の活性化が図られたという団体のメリット、協働相手である団体の経験や知識を活かして、アクションプラン策定への基礎資料となる自然環境評価書を作ることができたという市のメリットにおいて、お互いの自己評価は一致していると確認できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

本協働事業の目標である自然環境評価書を作成するため、年度当初からスケジュールをお互いに確認し、計画的に進めることができた。

また、啓発事業への市民の関心の高さが実感でき、今後も生物多様性の現状を伝えるために、有効な手段であると感じることができた。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては令和3年度で終了するが、生物多様性の考え方を広めるために、今回の協働相手である「ひらつか生物多様性推進協議会」とは、今後も市が主催するイベントや生物多様性保全に関する事業等への協力を続けていきたいと考えている。

また、成果物として完成した自然環境評価書を基礎資料として、令和4年度には、環境保全課で「(仮称)平塚市生物多様性保全アクションプラン」を策定するほか、自然環境評価書(概要版)は庁内外の環境イベント等で配布し、生物多様性の現状を伝えるための手段として活用していく。

令和3年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名 ひらつか着地型観光推進委員会

団体代表者 田中 純矢

事業担当課名 商業観光課

事業担当課長 仲手川 直

令和3年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	1,375,275 円	内訳	市の支出 1,088,875 円 ----- 団体の支出 286,400 円 等
事業の概要	地域の資源を活用して、地域主体、地域発信で行う新しい形の観光である着地型観光のプログラム開発と情報発信及び実施を行うことにより、平塚の新しいイメージやブランドを創り出していき、関係人口を増加させます。 2年目となる令和3年度は、平塚のさまざまな体験を扱うホスト（訪問先）とともに着地型観光プログラムを開発し、ひらつかまちまるごと学び舎構想と銘打って告知を行い、実施しました。		
具体的な実施内容	<p>①6月6日（土）「カラダで地球を感じよう。オーガニック畑で農業体験」開催 参加者21人（うち市外78%）</p> <p>②6月19日（土）・20日（日）「食品サンプルでかき氷づくり」参加者40人（うち市外15%）</p> <p>③観光協会の事業に運営協力「ひらつかタマ三郎周遊船」</p> <p>④7月18日（日）「土からこねこねハイできた！子ども陶芸教室」参加者9人（うち市外44%）</p> <p>⑤7月31日（土）・8月1日（日）「自分のサイン印章をつくろう！」参加者13人（うち市外16%）</p> <p>⑥8月7日（土）「つくる楽しさと使う楽しさ 革のキーホルダーづくり」参加者24人（うち市外なし）</p> <p>⑦8月21日（土）「相州だるまの絵付け」延期</p> <p>⑧11月13日（土）馬入水辺の楽校主催イベント「湘南ピクニック」後援及びブース出店</p> <p>⑨11月23日（祝）視察「いこーよ一本釣り漁のお仕事を体験しよう」</p> <p>⑩11月28日「吉沢で自然遊びと焼き芋づくり」参加者18人（うち市外なし）</p> <p>⑪12月19日（日）「波力発電所の見学&相模湾遊覧」参加者18人（うち</p>		

実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。

	市外 33%) ⑫ 12月15日(水)「着地型観光関係者交流会」参加者 24人 ⑬ 1月22日(土)「指令!海のうまみを見つけろ」参加者 11人(うち市外なし) ⑭ 3月2日(水)「観光まちづくり研修会」参加者 22人(リアル16人オンライン2人動画4人) ⑮ 3月26日(土)「願いがかなうコロんとかわいいだるま絵付け」参加者 19人(うち市外14%)
--	---

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

令和3年度実施協働事業 決算報告書

		項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収入		市の支出	1,731,232	1,731,232	0	
		団体の支出	30000	0	-30,000	団体として支出を予定していた、ウェブ会議システム zoom の利用やコワーキングスペースの利用を行わなかったため減額しました。
		事業収入	600,000	286,400	-313,600	新型コロナウイルスの蔓延により10プログラムを開催予定のところ9プログラムの開催となったこと、内容により、3000円以下の料金のプログラムがあったこと、プログラム開催場所の3蜜回避による定員の削減など、参加人数が少人数となったことなどにより、当初の想定より減額の収入となりました。
		収入合計	A 2,361,232	B 2,017,632	B-A -343,600	
		項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
② 支出		事務員人件費	808,800 (808,800)	724,160 (724,160)	-84,640	プログラムの開催9回 プログラム実施者同士の交流会1回 プログラム実施者等を招いた研修会1回 プログラム実施者主催のイベントへの協力1回 観光協会主催のプログラムの協力1回など 当初予定していない活動も行いました。
		法定福利費	113,232 (113,232)	32,080 (32,080)	-81,152	事務員の雇用を行わず、複数の団体内の会員の活動により事務を行っているため、想定より福利費が減額となりました。
		プログラム作成者人件費	240,000 (240,000)	72,175 (72,175)	-167,825	2年目であることなど、当初想定していた事務量を削減できたため、減額となりました。 なお、講師謝礼の当初予算上9万円を計上していたが、不足があったため、商業観光課と協議の上、プログラム作成者人件費から2万円を流用しました。
		講師謝礼	90,000 (90,000)	110,000 (110,000)	20,000	JTB総研の講師を招き、観光まちづくりについて、これまでのプログラム実施者や協力を要請している方々を集め研修を行いました。 なお、当初予算上9万円を計上していましたが、不足があったため、商業観光課と協議の上、プログラム作成者人件費から2万円を流用しました。

事務員交通費	100,000 (100,000)	15,429 (15,429)	-84,571	当初想定していた、受付管理のための事務員を雇用しなかったため、通勤手当がなくなり、必要最小限の交通費の支出となりました。
有償ボランティア	30,000 (30,000)	6,000 (6,000)	-24,000	4プログラム、延べ6名について有償ボランティアの協力を得ました。1プログラム当たり、最大2名だったため、減額となりました。
事務所費	118,000 (0)	2,400 (0)	-115,600	備品の管理や予約管理のためコワーキングスペースを想定していましたが、備品については、市民活動センターのロッカーの利用及び会員の自宅での保管を行ったほか、予約管理については会員が行ったため、コワーキングスペースを利用しませんでした。
プログラム実施者謝礼	480,000 (0)	203,288 (0)	-276,712	上記の事業収入と同様の理由により収入が減ったため、プログラム実施者への謝礼も応じて、減額となりました。
システム使用料	49,200 (49,200)	19,353 (19,353)	-29,847	事業収入の減額及び、予約管理において、当日支払いもあったため、それに伴い、システム使用料も減額となりました。
交通費	60,000 (60,000)	4,600 (4,600)	-55,400	プログラム実施者とは主にメール等での打合せになり、車両の利用等交通費は減額となりました。
通信費	99,000 (75,000)	53,319 (0)	-45,681	当初レンタル携帯電話を5か月想定していましたが、プログラム開催時期を中心に6か月の利用を行いました。レンタルの仕様を変更し、減額となりました。
広告費	123,000 (123,000)	89,306 (89,306)	-33,694	新規5プログラムについては開催時期を合わせ、まとめたチラシ作成となったことでチラシ枚数を少なし減額となった。そのほか、チラシの配布だけでなく、タウン誌であるタウンニュースを利用し、集客を図りました。
事務費	50,000 (42,000)	43,165 (15,772)	-6,835	会議やプログラム開催に伴う消耗品などを購入しました。
支出合計	C 2,361,232 (1,731,232)	D 1,375,275 (1,088,875)	D-C 985,957	
③ 収支決算額	B 2,017,632 円 - D 1,375,275 円 = 642,357 円			【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、**事業に関する収支すべて**を記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか着地型観光推進委員会	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

※評価点（5段階）の参考基準

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	新しい体験プログラムを加えて、合計9回プログラムを実施した うち6回は新規プログラムで、協働で平塚の魅力とともに発信、体験いただき、平塚への関係人口を増やし、平塚愛を育むという目的を共有することができた。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	イベントの企画、実施、運営などは、委員会で行い、公共施設の確保などの対応を市に行ってもらうなどしてうまく分担できた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面会議はほとんどできていないが、毎週オンライン定例会を行い、後半は平日も市役所にお伺いし、情報共有を密にした。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いに必要なことや不足している点を話しあいながら進め、お互いに尊重しながら、対等な立場で進められた。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	本活動を広く認知してもらおうという面で、市役所のHPやLINEなどで協力をいただき、認知の拡大ができた。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	コロナ禍でできない取り組みはあったものの、目的と目標を達成できた。 また、イベント提供者も交えた交流会を行い新しいつながりも増え、来年度のイベントへ広がりもできた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	運営経費をいただくことで円滑な運営をすることができた。コロナ禍が継続したことで、予定通り実施できなかった部分はあるが、一回あたりの費用対効果は十分に高かった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	アンケート結果からおおむね高評価を受けることができました。 ※アンケート結果を添付

(3) 実施したメリット

市民の メリット	主催者：新しい企画や新しい観光イベントの企画運営を発見できたり、周知できた。 参加者：新しい平塚の魅力を発見できた。
団体の メリット	市と連携することによって、団体だけで手に入れられない地域資源の発掘ができ、新しい平塚の観光プログラムを開発できた。
市の メリット	新しい取り組み、新しい事業者と会うことにより、協業できそうな人たちと会うことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

再来年の継続をどのように進めて行くか話し合っていく必要がある。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 行政が単独で実施
 その他（

- 休止または終了
 団体が単独で実施

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	商業観光課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	毎週の定例会で打ち合わせを重ねて目的を共有し、これまであまり広く知られていない体験プログラムを企画、実施し、平塚の新しいイメージをつくることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	互いの強みを生かした役割分担は適正であった。必要に応じて、互いにサポートして、実施できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	ほぼ毎週の定例会を中心に、意見交換を十分にできた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	互いの立場を尊重して対等に意見交換をし、実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	市民団体の人脈や柔軟な発想で、市単独ではできなかった魅力的な観光プログラムを実施でき、参加者の高い満足度を獲得できた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	昨年度に引き続き、コロナ禍での取り組みとなった。その中で、市民団体の会員や、参加者の安心・安全を確保しながら、可能な範囲で目的・目標を達成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	市だけでは企画ができなかった事業を工夫しながら実施できた。また、コロナ禍で実施ができなかった事業分については、市に戻入してもらった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などアンケート結果から、おおむね高評価を得ている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	これまであまり知られていなかった、平塚の地域資源を体感することができた。また、事業者にとっては、自身の活動を広く周知することができた。
団体のメリット	市民自身が、平塚の新しい魅力を掘り起こし、参加者を招いて実施することで、シビックプライドの育成につながっている。
市のメリット	これまで、地域資源として知られていなかった新たな平塚の魅力を、市内外に周知できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

コロナ禍のため、受け入れ側の事業者が消極的で、アイデアから実現にこぎ着けるのが難しい。コロナの状況が改善されれば、事業者との交渉はしやすくなる。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

交流会や勉強会を通して、市内の企業や団体に体験型観光を通じたまちの活性化の取り組みを理解してもらい、活動に協力してもらえようように促す取り組みを始めた。令和4年度が協働事業としては最終年になるので、協働事業終了後も継続できる体制を構築していく。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか着地型観光推進委員会	担当課名	商業観光課
事 業 名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

新型コロナウイルスの感染拡大後、オンラインで定例会を行うようにした。毎週の開催を通して、情報共有を密に目的を共有できた。市と団体のそれぞれ得意なことを生かして、単独では得られない効果を得られた。
 (例: 団体の柔軟な発想での開発したプログラムを市のLINEで周知したことなど)

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

引き続きコロナ禍で、さまざまな配慮が必要であったが、工夫をしながら、新しい観光プログラムの開発もすることができた。
 目標の新規プログラム10個の開発には達しなかったが、今年度は新たに、プログラム実施者同士の交流会や、外部講師を招いて今後本事業に関わっていただけそうな方を対象にした勉強会を開催でき、今後事業者同士が連携して新たな取り組みが期待される。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民のメリット：新しい平塚を発見することができた。プログラム実施者は、観光プログラムの企画運営を通して、自社の製品が平塚の魅力向上につながることを理解できた。

団体のメリット：メンバー自身のシビックプライドの育成につながっている。この事業を通して、市と連携でき、団体だけでは手に入れられなかった地域資源の発掘ができた。

市のメリット：新しい取り組みを通して、新たな事業者とつながりができた。また、市内外に新しい平塚の魅力を発信することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

行政提案型協働事業の仕組みが活用できる来年度が終わった後、どのような体制で継続をしていくか検討をしていかなければならない。

また、新型コロナウイルスの感染状況を見極めて、来年度も事業を進めていく。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施（提案型 提案型以外）

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他（

）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

交流会や勉強会を通して、新たな協力者を獲得しつつある。コロナの収束も見据えて、どのような体制で活動を継続できるか話し合っていく必要がある。

令和3年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 NPO 法人フードバンク湘南

団体代表者 大関めぐみ

事業担当課名 環境政策課

事業担当課長 鳥居 昌

令和3年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	4,273,007 円	内 訳	市の支出 4,273,007 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	<p>食品関連事業者で大量に同じ食品を在庫として所有している企業を対象に、その在庫食品を廃棄する際、フードロス削減目的としてフードバンク湘南に寄付していただくよう促していきます。本事業で開発をしたWEBアプリを活用することで、寄付をした法人には税制メリットが生まれます。廃棄していた食品を寄付に回すことで廃棄物削減による環境負荷の低減を目指す一方で、フードバンク利用者である生活困窮世帯に無償配布することで、相対的貧困の解消に寄与していきます。</p>		
具体的な実施内容	<p>基本活動 週3日 大関 岡田 久松 事務(林 山田)</p> <p>検品登録 打合せ 営業訪問 営業電話 資料作成 引き取り配達業務</p> <p>4/10 フードパントリー 5/12 フードドライブ 6/2 市役所 打ち合わせ 6/10 JA湘南 挨拶 6/11 商工会議所訪問 6/21 ライオン商事 倉庫打ち合わせ 6/28 サンフレッセ 菓子パンの廃棄について(埼玉) 7/2 神奈川環境開発 事務所内見 7/13 あさつゆ広場 野菜受け取り 8/12 ビーコルセアーズ 打ち合わせ 8/26 平塚信用金庫 フードドライブ 打ち合わせ 9/1 湘南ベルマーレ フードドライブ打ち合わせ 9/14 クラウドファンディング(クリスマスケーキ) サン・ライフ打ち合わせ 10/1 湘南厚木病院 打ち合わせ 10/27 市民活動センター 打ち合わせ 11/7 湘南ベルマーレ フードドライブ</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

	12/9 不二家 平塚工場 寄付受け取り 12/10 伊藤忠食品 平塚工場 寄付受け取り 12/10 J A湘南 野菜品評会での野菜 寄贈受け取り 12/17 松延小学校 2時間授業 12/22 ららぽーと湘南ひらつか 打ち合わせ 12/23.24 クリスマスケーキ配布 1/17 クラウドファンディング 報告 2/8 食品倉庫探し 不動産回り 2/28 ピックルスコーポレーション 来年度の打ち合わせ 3/11 進和学園 打ち合わせ
--	--

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和3年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	4,320,336	4,320,336	0	
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	1,200,000	48,000	-1,152,000	サン・ライフ様24,000 守山乳業様24,000
	収入合計	A 5,520,336	B 4,368,336	B-A -1,152,000	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	人件費	4,221,936 (3,021,936)	3,431,692 (3,431,021)	-790,244	コロナの影響で企業訪問等大幅な支障をきたしたため。
	交通費	417,600 (417,600)	163,000 (163,000)	-254,600	コロナの影響で企業訪問等大幅な支障をきたしたため。
	通信費	100,800 (100,800)	27,615 (27,615)	-73,185	訪問企業が少ないため、郵送件数も同様に縮小したため。
	広告宣伝費	80,000 (80,000)	0 (0)	-80,000	協力企業が少なく、表彰などの活動に至らなかったため。
	外注費	700,000 (700,000)	698,700 (698,700)	-1,300	実請求誤差による
		()	()		
	支出合計	C 5,520,336 (4,320,336)	D 4,321,007 (4,320,336)	D-C -1,199,329	
③	収支決算額	B 4,368,336 円 - D 4,321,007 円 = 47,329 円			【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人フードバンク湘南	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた○	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	事業における問題点をきちんと共有し、保管場所や企業へのアプローチなど可能な限り環境政策課にも動いていただきました。コロナ禍ということもあり、企業との接触がうまく図れませんでした。成果もわずかながら出ています。平塚市に空き場所がなく倉庫問題も解決できませんでしたが、方々問い合わせさせて頂き可能な限りの対応をしていただきました。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	食品ロスを企業からなくしていくためにらぼーとさんやJAさんへのアプローチをして頂きました。新たな広報の手法が確立できずその点は来年度の課題としてまいります
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	倉庫の問題と企業へのアピールが大きな課題であることは間違いなく、今後の方向性などは逐一、確認しあえたと思います。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	分担については一年目よりもうまくできていたと思います。倉庫の方向性も定まりました。分担がしっかりできていたために、今年度も多くの方への支援につなげることができました。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	廃棄物の多量排出事業者へピンポイントの活動ができたら、より効果が得られると考えております。多量排出事業者にゴミの減量を指示するその横で、この事業の企業への貢献度をお話しできれば、まだチャンスはあるかと思いません

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	困窮者への支援という点では数字的にも大きな成果が出ております。食品廃棄物を寄付へ変換できた量も大幅に増えました。しかし、企業数に伸び悩みがございます。今年度は昨年度よりもさらに企業の疲弊が見られ、なかなか協力を得られない結果となってしまいました。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	同様になりますが、困窮者の支援という点では平塚市単独でやるよりもはるかに経費をかけず大幅な支援ができたと思います。職員一人分の経費でこれほどの支援は難しいと考えます。また、廃棄物の削減という点でも市内から出るはずだった廃棄物を寄付に変えることができました。一方で企業への協力を要請する観点ではなかなか成果が出ず、大きな課題を抱えております。そんな中ではありますが、フードバンク活動への理解については得ることができてきております。フードバンク活動への寄付金という点では大幅な増となりました。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など こちらと同様になりますが、要支援者様からは本当に心のこもったお手紙や感謝を頂戴しております。平塚市でこういった活動が活発に行われていることは市民の方にとっても喜ばしいことではないでしょうか。一方で企業のSDGsの一つ、ゴミの減量は一部の成果にとどまっております。料金についてはなかなかコロナ禍で厳しいところではありますが、食品を廃棄から寄付へ切り替えた企業様からはもったいないと思っていたから本当に良かったというお言葉を頂戴しております。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	様々支援を行っている平塚市ではありますが、このコロナ禍でその支援では不足していたり、支援の枠に入らない、要支援者さんがおります。その方たちに、平塚ではさらなる支援ができているという補填的な役割を担っています。そういった点では手厚い支援の受けられるというメリットがあると思います。
団体のメリット	この活動は定期的でなおかつ継続をしなければならない活動です。我々だけではいつ活動が終わってしまうとの言えない状況です。平塚市がともにこの活動をして下さることは継続性を高める大きなメリットとなっていると思っています。
市のメリット	日曜日の食品配布や数多くのボランティアさんに支えられているこの活動は市役所として実行するのと比較して、経費的に見て格段に大きな削減になっていると考えます。また、平塚市は比較的、この活動におけるSDGsは進んでおり、他市に向けても良い先事例になると思います。

(4) その他、課題やその改善方法など

課題は企業への協力要請に尽きます。オミクロンと変異株の影響でイベントが中止になったり、訪問をコロナが落ち着いてからというご意見を頂戴したり、業績の問題に加え株価の暴落など、企業には苦しい状況が続いています。訪問からクラウドなどの手法に切り替えたり、コロナと景気を見つつ諦めず活動していこうと考えております。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 (

休止または終了

団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

寄付が集まっていることは大きな前進ではありますが、定期的な安定収入を見込めないと、事業の縮小を余儀なくされてしまいかねません。来年度、企業様からの支援を受けられるよう担当課と相談し進めていきます。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	平塚市環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	標記事業の目的を共有し、双方取り組みを行いました。 相互理解がさらに深まり、信頼感を高めながら協働事業を行うことができました。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	適正に役割分担を行いました。より分担、協働できるよう、 密に連絡を取りながら進めていきたいと考えます。
③「十分に協議」を行いま したか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	随時報告、協議し、方向性の確認等を行いました。 引き続き理解を深め、協議しながら進めていきます。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	対等な立場を基本としつつも、フードバンク湘南を前面に 立てながら必要なサポートは随時行うよう支援に努めてき ました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	企業からの寄付が増えてきており、相互効果、波及効果 を感じています。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	WEB アプリ利用事業者数が伸びていない実情はあるものの、寄付量は前年度比で比較すると約1.5倍に増加しており、廃棄物の減少にも貢献しているものと捉えています。また、認知度の向上から寄付金も大きく増えたと団体から報告を受けています。本事業の目的・目標はある程度達成できたものと考えています。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	本事業開始以来、フードバンク湘南への食品の寄付量（廃棄物削減量）は増え続けていますが、職員がこれにかかる啓発や企業訪問等を行うには、相応の人員費が発生します。一定の成果も出ていることから、費用対効果は出ているものと捉えています。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など WEB アプリ開発時にメディアで大きく取り上げていただいたことから、未だに大学生や学校関係者、遠方の市民や他自治体職員から問い合わせもあり、団体や事業の認知度向上とそれによる寄付も進んでいるものと考えます。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く市民に対する食品ロス削減取り組みへの意識改善や啓発効果 ・ 食の支援を必要とする生活困窮世帯にとっては、フードバンクの存在と活動が認知される機会となる
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な未使用食品の確保への期待 ・ 市との協働であることによる信頼感の獲得 ・ 食品寄付、寄付金の増加
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の削減への普及啓発と効果 ・ 生活困窮世帯への支援の拡充

(4) その他、課題やその改善方法など

・ 事業スキームとしては、WEB アプリ使用料を得て安定的な収入の確保を目指すもののため、その視点では軌道に乗っていない状態です。しかしながら、関係団体への広報活動等により食品の寄付量、寄付金の増加は顕著に表れており、一定の成果は出ているものと考えています。令和4年度が本事業最終年度となるため、事業終了後も団体が継続的に活動できるよう、企業からさらなる協力を得られるよう、協働して取り組んでいきます。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

遅れが出ている WEB アプリ利用事業者の獲得を進めることで、団体の収益確保及び事業の安定に繋がりたいと考えています。一方で、WEB アプリ利用に限定せず、企業からの寄付を増やすことで食品ロスと廃棄物の削減及び相対的貧困の支援に繋がるため、これを後方支援したいと考えています。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	NPO法人フードバンク湘南	担当課名	環境政策課
事 業 名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・相互理解が進んだため、協働事業初年度よりも円滑なやり取りができました。
- ・WEB アプリ利用事業者の進捗が新型コロナウイルス感染症の影響もあり想定どおりに進まない際も、最大の目的は食品ロス削減と相対的貧困解消であることを確認し合い、WEB アプリに固執しすぎず、企業の理解と協力を得ることを最優先しました。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・WEB アプリ利用事業者の獲得が進んでいないという問題意識は団体、市で共通認識として持っています。
- ・商工会議所等への広報活動等により企業からの食品寄付や支援数は着実に伸びていることから、事業本来の目的である「食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消」は一定程度達成できていると考えています。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

・市民・団体・市いずれにもメリットがあったものと双方認識していることを確認しました。市単独では行き届かない啓発等が団体により行われたことや、団体単独では得られなかった企業との繋がりができたこと、それにより市民への支援が増えたことから協働事業を行ったメリットがありました。

(4) その他、課題やその改善方法など

・令和4年度が本事業最終年度であることから、WEB アプリ利用事業者数を伸ばしたいところですが、営業が思うようにできないことと、食品関連事業者からは売上減少により現時点では税制メリットが感じられないとの声もあり、WEB アプリ利用事業者を当初予定どおりに増やしていくことには難しさを感じています。一方で、広報活動等により市内事業者への認知が進み、食品寄付や寄付金の意向を示していただけることは増えているため、世情を見極めながら取り組んでいきたいと考えています。WEB アプリ利用事業者の獲得には苦戦をしているものの、WEB アプリの導入により、事業者・個人からの寄付による団体の在庫管理には大いに役立っています。団体が通常行ってきた活動の人的労力を抑える役目も担っており、WEB アプリ自体は広範に活躍しています。

・倉庫の安定的な確保が課題であることから、厚生省補助金の申請や、企業への支援を求めてきました。現在は賃貸物件の選定が進んでおり、令和4年度は好転する見込みがあります。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業を実施したことにより、企業と繋がりができたり、社員や会員の皆様から寄付を募ってくださったりと発展の芽を得られたことは大きな成果だと考えています。これは目的の一つである自主財源の確保として、その一部となることは間違いありません。この活動規模を継続できるとはいきませんが、我々にできることは一人でも多くの方に食品を行き渡らせることですから、そういった点では事業前と比較して一人でも多く支援ができるような団体になってきております。3年目のコロナの状況で不透明であります、新たな財源の確保の手法の構築など、できることを実行していきます。

令和3年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

(特定非営利活動法人)

団 体 名 湘南NPOサポートセンター

団体代表者 坂田美保子

事業担当課名 協働推進課

事業担当課長 田中恵美子

令和3年度に実施しました協働事業について、次のとおり事業報告いたします。

事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		
事業開始年度	令和3年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	3,083,460 円	内 訳	市の支出 3,083,460 円
			団体の支出等 0 円
事業の概要	<p>平塚市との協働で8年間実施している「ひらつか地域づくり市民大学」において、多くの地域で各種団体役員の高齢化、担い手不足が大きな課題となっていることが明らかになっていた。</p> <p>加えて、一昨年度来の新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、様々な地域活動、地域行事が自粛、中止となり、その開催内容や方法についても見直していくきっかけとなった。</p> <p>本事業では、ウィズコロナ、ニューノーマルの社会において地域活動を行う上で参考となるような事例や新しいやり方の試行経過をまとめることで、次世代へ継承していける持続可能な地域活動の仕組みづくり支援を目的とする。</p> <p>令和3年度は、自治会と通じた地域活動の実態把握のアンケート、行政関係部局内部や有識者へのヒアリングを通じ、問題点と課題解決検討のポイントを整理することを行った。</p>		

具体的な
実施内容

実施年月日、実施
内容、参加者等
をご記入ください。

- (1) 市内全自治会実態把握アンケートの実施・整理
- ・対象：226自治会役員 回答 902/1157票 (回収率 78.0%)
 - ・内容：自治会運営上の困りごと、やりがい、コロナ禍での地域活動の工夫、地域活動（防災、美化、高齢者・子供支援、レク・スポーツ等）の状況等
 - ・実施：5/12 アンケート企画協議
湘南NPOサポートセンター（以下「SNPO」）8名、市3名
6/1 アンケート案協議
SNPO 7名、市担当課 3名
7/下旬～8/下旬 アンケート配布・回収
9/月上旬～11/下旬 アンケートデータ入力・集計・自由回答整理
2/3 アンケート結果協議
SNPO 3名、市担当課 2名
3/4 アンケート結果報告書案協議
SNPO 4名、市担当課 2名
3/23 アンケート結果報告書発行提出 (74P；400部)
SNPO 8名、市担当課 3名
- (2) 先行的取り組み地区へのヒアリングの実施
- ・対象：LaLa湘南平塚コミュニティ自治会、横内連合自治会
 - ・内容：従来活動の見直し、団体連携・協力、多世代参加の工夫等
 - ・実施：12/15 LaLa湘南平塚コミュニティ自治会
SNPO 2名、市担当課 2名
2/28 横内連合自治会 SNPO 4名、市担当課 3名
- (3) 「地域活動」所管部局アンケート／ヒアリングの実施
- ・対象：協働推進課、環境政策課、社会教育課、スポーツ課、福祉総務課、地域包括ケア推進課、危機管理課、災害対策課、青少年課
 - ・内容：所管活動についての支援制度内容、地域と協議・調整の状況等
 - ・実施：10/月上旬～11/月上旬 各課アンケート実施
2/4 環境政策課ヒアリング SNPO2名、市担当課 2名
2/7 スポーツ課、青少年課ヒアリング SNPO2名、市担当課 2名
- (4) 有識者ヒアリング調査
- ・対象：本年度「ひらつか地域づくり市民大学」講師
 - ・内容：新しい地域・行政連携、柔軟な先進的取り組みのポイント等
 - ・実施：12/12 石川岳男氏 SNPO 3名
1/16 神谷秀美氏 SNPO 2名
- (5) これからの地域づくりテキスト暫定案の作成
- ・事業提案書時点では「地域づくりテキスト暫定版の作成」を記載していたが、その後の提案書の事前意見交換をもとに、公開プレゼン審査時点(2020.10.3)では、「(1)のアンケート結果共有の場づくり」、さらに審査員意見等を踏まえ、(1)の規模を拡大する中で、アンケート結果報告書の整理を最優先することに変更した。
- 成果報告
- ・自治会研修会（中央公民館）にてアンケート概要の報告企画
→感染拡大防止対応のため研修会が延期となり、結果報告書配布に変更

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

令和3年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	3,083,460	3,083,460	0	
	団体の支出	22,500	0	-22,500	お茶代は個人負担とした
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 3,105,960	B 3,083,460	B-A -22,500	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	謝金	240,000 (240,000)	300,000 (300,000)	60,000	全体指導 (アンケート調査指導・ヒヤリング内容指導等) (1) アンケート調査項目・入力 of 指導・ヒヤリング内容の指導 (学識経験者単価@15000円/回*10回×1人) (2) アンケート調査分析及び分析結果・地域づくりの助言及び指導 (学識経験者単価@50000円/月*3ヵ月×1人)
	賃金	2,712,960 (2,712,960)	2,639,209 (2,639,209)	-73,751	-全体企画・進行管理 4H*20日*2人*1,500円=240,000 -アンケート内容作成・印刷配布 170.8H*1,500円=256,200 (9人) -アンケートデータ入力 303.63H*1,021円=310,009 (東海大生30人) -アンケート分析・報告書作成まとめ 1076.7H*1,500円=1,615,050円 (9人) -庁内関係部署ヒヤリング調査・まとめ 52.8H*1,500円=90,000 (3人) -経理事務 3.33H*2日*1500円*12ヵ月=120,000円 ※賃金の単価 法人業務単価表を基に協働事業単価として再設定した。 (例) 専門技術者単価@8500円、業務管理分析@7500円、協働コーディネーター@7500円、地域活動経験者@1500円他) *アンケート入力業務が予定より早く終わったため若干減となった。
	印刷費	100,500 (100,500)	99,610 (99,610)	-890	アンケート調査報告書印刷費 (74P; 400部) *予算ではアンケート印刷 40,500円、ヒヤリング・検討会等資料コピー 50,000円、テキスト印刷 10,000円を計上したが、結果的に「自治会(町内会)活動に関するアンケート調査結果報告」を作成・発行することになったため、若干減となった。
旅費交通費	30,000 (30,000)	5,300 (5,300)	-24,700	打合せ (500円×10回、駐車場 300円)	

会議費	0 (0)	5,192 (5,192)	5,192	会議用資料コピー代 *アンケート調査項目の整理、アンケート分析結果の検討等により会議用資料等のコピー代を計上した。
消耗品費	0 (0)	33,159 (33,159)	33,159	(コピー用紙・封筒・クリップ) 13,467円 (PCインク代) 19,692円 *自治会(町内会)活動に関するアンケート調査を行うに当たり、アンケート調査用紙・封筒等購入した。またアンケート調査分析・報告書作成に当たり、プリンターインクを購入した。
支払手数料	0 (0)	990 (990)	990	支払手数料 *学識経験者への謝金口座支払いのため
食糧費	22,500 (0)	0 (0)	-22,550	お茶代は個人負担とした
支出合計	C 3,105,960 (3,083,460)	D 3,083,460 (3,083,460)	D-C -22,500	
③ 収支決算額	B 3,083,460円 - D 3,083,460円 = 0円			【備考】

※支出額の()内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、**事業に関する収支すべて**を記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	■団体 □行政
事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	ウイズコロナが予想以上に続く状況の中、地域側での活動の自粛が長期化し、活動内容や会議運営、役員選出等、今後の持続性や運営の仕方について、地域（自治会）ならびに庁内関係課でも問題意識がより高まり、その共有化が進んだと思われる。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	全自治会対象のアンケート企画・実施を当団体が担い、その実施にあたっての自治会側との調整を市が担ったことは、リアルな打ち合わせがむづかしい状況では、大きな支障なく効率的に進めることができた。 また、庁内関係課へのアンケート・ヒアリングも協力的に意見を整理することができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	幅広く市内での活動実態を把握するうえで、地域活動の現状と課題を整理するために、自治会活動から切り込んでいくか、地域諸団体活動まで広げていくかについては、若干の意識の差異はあった。しかしながら、地域活動の起点的役割の自治会を通じて次年度以降の事業につなげられるようアプローチすることを協議し、確認することができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	自治会アンケート結果を今年度成果の一つとして取りまとめるにあたり、集計結果、自由回答結果の解釈とその表現については若干の差異があった。 担当課と市民目線との立ち位置の違いはやむを得ないので、連携して取り組む視点からに着眼して整理するように努めた。

⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	アンケートならびにヒアリングを連携して行うことで地域側と行政側の問題認識の共通点と、課題となる制約条件等を体系的に捉えることができ、今後の改善検討のポイントを共有できるようになったと思われる。
-------------------------------------	---	--

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	当初規模を上回る全地区自治会 (226 地区) 役員を対象にしたアンケートではあったが、高い回収率 78% (目標 70%) を達成できた。 今後の地区検討モデルについては目標 3 地区に対し、2 地区にとどまった。 庁内各課アンケートについては9課にわたり、今後の検討の貴重な情報となった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供 (費用対効果)」が得られましたか。	4	自治会アンケートについては、地域の実情による差異、役員の役職や経験年数による差異等を踏まえた集計切り口、さらには自由回答の整理軸等、予算化時点の想定以上にスタッフ、アドバイザーとの協議・整理に時間を要した。 令和4年度事業検討の中でもアンケート成果を振り返りながら進めていく必要があると認識している。
③事業に対する「受益者 (市民) の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	—	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 自治会アンケートの成果報告については、まん延防止対策に伴い令和4年5月に延期となったため、令和3年度としては市民 (受益者) からの意見を把握する機会がなかった。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	自治会役員対象のアンケート設問に回答・記述することで、まず、自治会役員の方々の市民目線での現状認識、問題の所在を再確認できたのではないかと考える。 自治会研修会等、他地域での実態を知っていただき、あらためて地域活動や、役員選出、各種団体の連携等について新たな取り組み機運を高めていけると思われる。
団体の メリット	運営を委託されている「市民活動センター」での相談対応や地域魅力発信、「地域づくり市民大学」での講座内容等、地域課題やニーズをよりの確に反映した取り組みに活かしていけると思われる。
市の メリット	自治会アンケート結果と関係各課アンケート・ヒアリングの突合せにより、より現実的、可及的に検討すべき事項、具体の支援制度づくりや現規程上での運用の工夫等、再検討・再構築するポイントを掴むきっかけとなったと思われる。

(4) その他、課題やその改善方法など

自治会アンケートを通じ、実態の差異の背景にあるこれまでの地域運営の経緯やローカルルー
ル的な仕組みの影響等も課題の一つにあるように思われる。
地域運営の持続性、住み続けたいわがまちづくりの大義の下で、若い世代の参画、楽しく活動
できることを探れるよう、幅広い意見把握も重要と考える。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の
確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市制 90 年迎える機会に、アンケート調査結果やウイズコロナを意識した先駆的な活動への工夫
等、広く市民への発信の場を企画してはどうかと考える。
本事業が終了しても、定期的(例えば5年に一度)にアンケートを継続実施することで、共創型
の地域運営・経営への機運の醸成に活かしていけるのではないかと考える。
団体としての役割を発展させていく点からは、令和4年度に想定している地区検討会での新た
な取り組み事例のプロセス等を取りまとめ、出版化やセミナー企画による収入源の一助ならび
人材育成支援ノウハウの蓄積につなげていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	協働推進課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

（1）協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	事業を進める中で、自治会活動から切り込んでいくか、地域諸団体活動まで広げていくかについて、若干の意識の差異はあったが、繰り返し意見交換することで、最終的には目的を共有することができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	アンケートの作成や分析については団体の役割であったが、市側が意見することもあり、役割分担が明確でなかった部分も見られた。庁内関係課へのアンケート・ヒアリングについては、明解な役割分担ができ、スムーズに整理することができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	アンケート内容や集計・分析方法で多少意見の相違が見られたものの、対面でも電話やメールでも緊密に協議を行うことができた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	対等な立場であるということを念頭に置き、活発に意見交換するとともに、一方に任せきりになることなく、連携しながら事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	自治会へのアンケートの依頼や回収については、自治会長との信頼関係のある市が行い、集計や分析については、団体がこれまでの経験やノウハウを活かして行うことで、市全体を対象としたアンケート調査をスムーズに行うことができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	自治会アンケート調査は高い回収率 78%を達成することができ、また、庁内各課アンケートについても9課から意見を聞くことができるなど、予定を上回る成果を得ることができたが、予定していたアンケート報告会がコロナの影響で延期となり、年度内に実施することができなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	アンケートの結果については、ある程度想定していたとおりとなったが、これまで成果物として残したことはなかったため、大きな効果は得られた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	—	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などアンケートの報告会を楽しみにしているという声があったが、コロナの影響で年度内に実施することができなかったことから、評価はできない。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	自治会役員がアンケートに回答し、結果を目にすることで、自治会運営や活動の現状把握や課題等の再確認ができる。また、今後、同じようなアンケートをする場合の基準となる。
団体のメリット	全自治会を対象としたアンケートの集計や分析、報告会を実施することで、知名度や信用度が上がり、団体としての今後の取り組みにプラスになる。
市のメリット	地域の声を聞く機会を得られるほか、アンケート結果を成果品として残すことで、今後、様々な業務での説明材料として使うことができる。

(4) その他、課題やその改善方法など

令和4年度は、モデル地区でのワークショップ等を行うことから、事前に団体と目的や進め方を明確にし、地域が混乱しないようより丁寧に進めていく必要がある。また、地域課題である担い手不足や負担軽減等の解消については、他部署にも波及することなので、他部署をどう巻き込むかが課題である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

アンケート調査は、やりっぱなしではなく、それをどう活用するかが重要であると、平自連役員からも意見が出ていることから、令和4年度のモデル地区でのワークショップと並行して、地域に出向いてのアンケート結果報告会の実施等も団体との協議の上、検討したい。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	(特定非営利活動法人) 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課
事 業 名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

地域課題への対応や担い手不足の問題等については、各地域で工夫しながら取り組んできた経緯がある中で、どこまでの活動や団体を対象に本事業に取り組んでいくか、また、アンケートの内容や分析をどうするか等で市と団体とで若干の考え方の差異はあったものの、対等な立場であるということ念頭に置き、連携して取り組む視点に着眼して整理するように努めた結果、今後の改善検討のポイントを共有できるようになった。

また、アンケートや庁内関係課のヒアリングによって、今後の地域の持続性や運営の仕方について、地域ならびに庁内関係課でも問題意識がより高まり、その共有化が進んだ。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

自治会アンケート調査は高い回収率 78%を達成することができ、また、庁内各課アンケートについても9課から意見を聞くことができたなど、予定を上回る成果を得ることができた。

結果については、ある程度想定していたとおりとなったが、これまで成果物として残したことはなかったため、庁内各課ヒアリングの結果とともに今後の検討の貴重な情報源となった。令和4年度の取り組みの中でもこれらの成果を活用しながら進めていく必要がある。

ただし、予定していたアンケートの報告会については、まん延防止対策に伴い、令和4年5月に延期となったため、令和3年度としては市民(受益者)からの意見を把握する機会がなかった。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

アンケートを実施したことで、自治会役員が自治会運営や活動の現状把握や課題等の再確認ができるとともに、今後、同じようなアンケートをする場合の基準にすることができる。

団体においては、知名度や信用度が上がるほか、今後、地域課題やニーズをよりの確に反映した取り組みに活かすことができる。

市においては、地域の声を聞く機会を得られたほか、アンケート結果を成果品として残すことで、今後、様々な業務での説明材料として使うことができる。

(4) その他、課題やその改善方法など

令和4年度は、モデル地区でのワークショップ等を行うことから、事前に市と団体とで目的や進め方を明確にし、地域が混乱しないようより丁寧に進めていく必要がある。また、地域課題である担い手不足や負担軽減等の解消については、他部署にも波及することなので、他部署をどう巻き込むかが課題である。その他、若い世代の参画、幅広い意見把握も重要と考える。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

アンケート調査は、それをどう活用するかが重要であることから、令和4年度のモデル地区でのワークショップと並行して、希望があった地域に出向くなど、アンケート結果から浮かび上がった課題等を広く市民に発信する場を検討する。

また、本事業終了後も、定期的にアンケートを継続実施することで、地域側での自主運営のモニタリング、市の政策への反映等、幅広く活用していける方法の検討も見据えていく。